茨木市立　　東中学校　茨木っ子グローイングアップ計画

平成２９年１０月作成

1　３年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	連携カリキュラムの実践 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 ３校合同研修の開催 合同授業研の開催 ３校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 教材の交流 児童・生徒の交流	連携カリキュラムの検証と改善 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 ３校合同研修の開催 合同授業研の開催 ３校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 児童・生徒の交流	連携カリキュラムの総括 連携担当者会議の開催 「いきいきスクール」の開催 学校事務の共同実施 ３校合同研修の開催 合同授業研の開催 ３校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 児童・生徒の交流
確かな学力の育成	授業規律・学力保障の推進	１、 落ち着いた気持ちで臨める授業作り 学びと学びあいのある授業作り 学ぶ姿勢の改善 授業 10 か条の活用 ２、研究授業の実施 学ぶ意欲を高める研究授業 協働化と全員参加の授業を目指す。 ３、家庭学習の充実 効果的な宿題内容の研究 保護者との連携 ４、基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 躓きの発見、育成方法の研究	１、 落ち着いた気持ちで臨める授業作り 前年の授業作りの検証と改善 学ぶ姿勢の改善 授業 10 か条内容の検証 ２、研究授業の実施 学ぶ意欲を高める研究授業 協働化と全員参加の授業の検証と改善 ３、家庭学習の充実 効果的な宿題内容の研究 保護者との連携 ４、基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 育成方法の研究と実践	１、 落ち着いた気持ちで臨める授業作り 前年の授業作りの検証と改善 学ぶ姿勢の改善 授業 10 か条内容の改善 ２、研究授業の実施 学ぶ意欲を高める研究授業 協働化と全員参加の授業の検証と改善 ３、家庭学習の充実 効果的な宿題内容の研究 保護者との連携 ４、基礎学力を獲得するための「読む力」の育成 実践の継続と検証
豊かな人間性を育む	人権感覚・共に生きる心の育成	※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容を行う （全体） ・平和学習・人権講演会 （学年） ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方（進路） ・三学年共通→命の学習（食育）・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育	※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容の充実 （全体） ・平和学習・人権講演会 （学年） ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方（進路） ・三学年共通→命の学習（食育）・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育	※お互いの違いを認め合う、仲間を大切にする生徒の育成 三年間を見通した学習内容の精選・充実 （全体） ・平和学習・人権講演会 （学年） ・一年→国際理解 ・二年→部落問題・職業体験 ・三年→生き方（進路） ・三学年共通→命の学習（食育）・障がい者理解・クラスミーティング・キャリア教育
健康・体力の増進		体力調査の各項目をバランス良く伸ばし子供の基礎体力向上につなげる。 行事やレクレーションなど意欲的な活動を通し最後までやり遂げる力。達成感、そして体力向上につなげる。 食育を教科学習として行う。 ＰＴＡの協力による啓発活動を行う。	昼休み運動場での活動を奨励する。また行事などを通していきいきと生徒が活発に意欲的に活動をするのを目指す。体育の授業では体育委員を中心に授業はじめの体操・トレーニングにより、補強運動や筋力トレーニングを行うことで、基礎体力や体力向上につなげる。 体力診断テストの結果から、生徒状況を把握し、授業改善に努める。 生徒自身に自分の体力を知らせ、体力向上への意識づけを行う。	体力調査４項目以上で全国平均並みにする。 食育の充実（教科学習、委員会活動、部活動等で行う） 家庭での食事、運動について協力を得る(啓発活動)。 体育の授業での運動量の充実。部活動の一層の推奨。
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

（1）全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

（領域ごと）

① 話すこと・聞くこと
概ね良好であった

② 書くこと
良好な結果であった

③読むこと
概ね良好であった

④言語事項
概ね良好であった

（問題形式）

①選択式
概ね良好であった

③ 短答式
良好な結果であった

③記述式
該当問題なし

（無解答率）
概ね良好であった

（その他）

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問
8二2　8三
・もっとも正答率の低かった設問
9五
・もっとも無解答率の高かった設問
4
・無解答がなかった設問
1一、1二、2二、3一、3二、5二、6一、6二、7一　、7二、9三アイウエオ、9四アイ

国語B

（領域ごと）

①話すこと・聞くこと
概ね良好であった

②書くこと
概ね良好であった

③読むこと
良好な結果であった

④言語事項
良好な結果であった

（問題形式）

①選択式
概ね良好であった

②短答式
概ね良好であった

③記述式
概ね良好であった

（無解答率）
概ね良好であった

（その他）

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問
1二　1三
・もっとも正答率の低かった設問
2三
・もっとも無解答率の高かった設問
3三
・無解答がなかった設問
1一、1二　1三　2一、2二　3一、3二

分析

国語ABにおいて、すべての項目で全国を上回っていた。特に国語Aは、この三年間、正答率が上昇し続けている。また、正答率40%以下の生徒の割合は、少なくなっており、正答率80%以上の生徒の割合は多くなっている。これは、毎授業初めの漢字・語句プリントを使っての復習、定期テストでの三百字作文等によるもので、基礎的な知識の定着、そして、関心・意欲を高めていることが原因と考えられる。国語Bについては、正答率40%以下の生徒の割合は、昨年度に比べて少なくなっているが、正答率80%以上の生徒の割合も少なくなっている。これは、上位層の国語Bの伸び悩みが考えられる。全ての生徒の関心・意欲を高める教材指導の徹底が大切であると思われる。

○●数学●○

数学A

（領域ごと）

① 数と式
概ね良好な結果であった

② 図形
良好な結果であった

③ 関数
概ね良好な結果であった

④ 資料の整理
概ね良好な結果であった

（問題形式）

① 選択式
概ね良好な結果であった

②短答式
良好な結果であった

② 記述式
該当問題なし

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
全体的に無解答率が低く、あきらめず解こうとしている姿勢がうかがえる。

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問 1(1)
・もっとも正答率の低かった設問 14(1)
・もっとも無解答率の高かった設問 9
・もっとも無解答率の低かった設問
1(1)(2)(3)　2(2)(3)

数学B

（領域ごと）

① 数と式
概ね良好な結果であった

② 図形
良好な結果であった

③ 関数
概ね良好な結果であった

④ 資料の活用
概ね良好な結果であった

（問題形式）

① 選択式
概ね良好な結果であった

② 短答式
概ね良好な結果であった

③ 記述式
概ね良好な結果であった

（無解答率）
概ね良好な結果であった

（その他）
全体的に無解答率が低く、あきらめず解こうとしている姿勢がうかがえる。

学校の特徴的なことについて記入
・もっとも正答率の高かった設問 3(1)
・もっとも正答率の低かった設問 1(2)
・もっとも無解答率の高かった設問 3(2)
・もっとも無解答率の低かった設問
1(1)(3)　2(1)

分析

概ね良好な結果であった。

数学的用語を理解し、答える問題が弱い傾向にある。

何を聞かれているのか、何を答えたらいいのか、わからなかったと思われる。

数Ａでは資料の活用「範囲」「相対度数」という用語の意味、数Ｂでは数学的な表現を用いて説明する力が弱い。

問題を解く機会を増やし、自分の意見を発信できる力をつける授業づくりを推進したい。

総合的には数値は高めで、数学を頑張ろうとしている生徒が多い。その理由として、中学１年時に学習サポーターが授業に入り込み、支援していたことが考えられる。

また、単元ごとに提出物のチェックや、確認テスト等により、生徒の理解や取組みを把握することで、中１ギャップを解消するとともに、基礎学力の低い層に支援し、低学力層の底上げができている。

無解答率の低いことも良好な結果であった。興味・関心を高められる授業ができたと思われる。学校目標における学力向上の取組みが効果をあげている。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

国語、数学、両教科とも全国の平均以上の成績であった。今年度は昨年度よりも若干ではあるが向上し、これまでの取組みの効果がでていると考える。ただ、A 問題に比べると B 問題については国語、数学両教科とも課題がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

A 問題については、学力高位層が増え、学力低位層が減っている。しかし、B 問題については学力低位層は減っているものの、学力高位層も減っているため、活用する力に課題が残る。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

① 落ち着いた雰囲気で授業に臨める環境づくり
毎日を落ち着いた雰囲気で授業に取り組むために、教員と生徒の各委員会が協力し、
授業規律の確立と改善、検証を行う。
東中学校授業 10 か条の活用
号令係研修会の実施と検証

② 授業改善の取組み
授業研究　学ぶ意欲を高め、学びと学びあいのある授業づくりを目指す。
１年間に３回の研究授業を行う。
授業交流週間の実施
１から２週間の期間を決め教員同士がお互いの授業を見学し、改善点などについてコメントをする

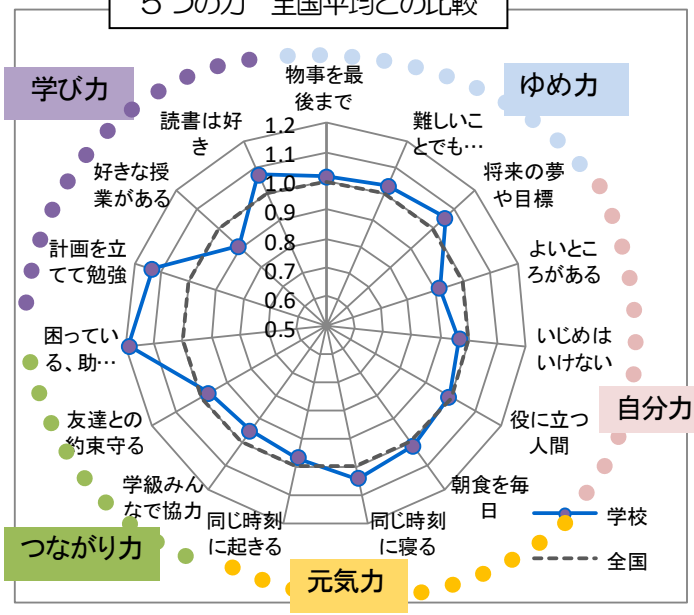
③ HIT(Higashi Intensive Time)の実施
テスト１週間前頃から MT 後や学活の時間を使って各教科から基礎的な問題をプリントにし、
個人や班で協力し定期テスト対策として行う。

④ 放課後学習会の実施
全学年で統一した学習会（週に１回）を放課後に行う。

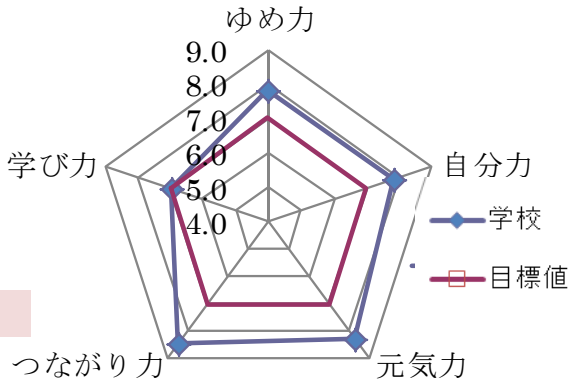
⑤ 家庭学習の充実
各学年、各教科どれだけ宿題が出されているかを分析し、検証する。

○●子どもたちに育みたい力●○

５つの力　全国平均との比較



５つの力　目標値との比較



分析

つながり力では、個人的に困っている人がいれば助けることができるが、クラスやみんなと協力して行動することは苦手な部分がある。

学び力では本を読んだり、計画を立てて勉強する力はかなりある。魅力ある授業を推し進めれば、さらに力がつくと考える。

夢を持つことが難しい社会になってきているが、将来に自分の夢を持ち、難しいことに挑戦する気持ちが強い。

遅刻してくる生徒は少なく、朝食をしっかり食べて登校してきているので、生活習慣は身についている。全体として、個人でやらなければいけないことや、やりたいことはもっているが、お互いに協力したり、助け合ったりしようとする気持ちが少し弱い傾向にある。

取組み

個人の基本的な生活習慣や勉強への姿勢は概ね良好であるので、今後も意識させていく必要がある。

課題の一つがクラスや学年のつながり力にあるので、各学年や学校全体として、クラスや学年が一つになり、みんなが協力できる雰囲気を作っていくことが大切である。そのために、委員会活動や班活動などを積極的に取り入れていく。

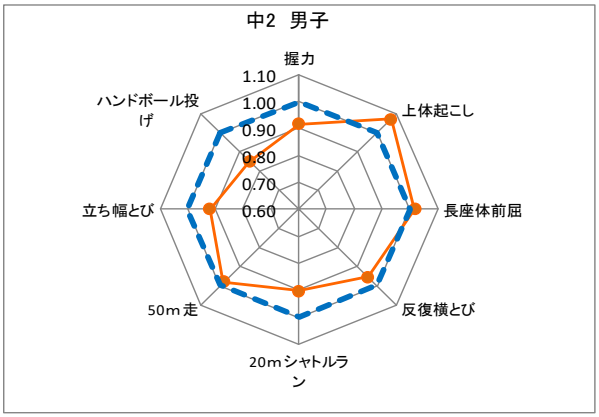
授業づくりでは、研究授業や授業交流週間を生かし、全員が参加できる授業づくり考えることが必要である。

また、自尊心も低い傾向にあるため、学習面だけでなく、みんなのために行動し、周りから感謝されたり、行事等で頑張ったことが自分自身につながるような取組みも考えていかなければいけない。

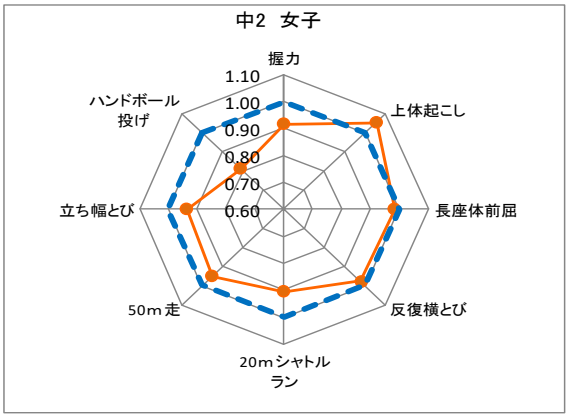
（2）全国体力・運動能力、生活習慣調査

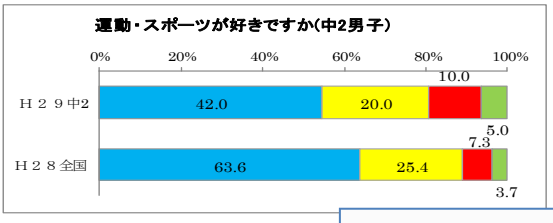
○●体力●○

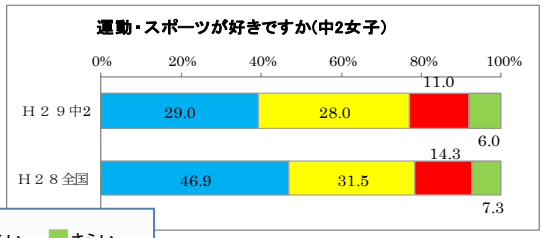
男子（中2）



女子（中2）







好き　やや好き　ややきらい　きらい

分析

・全体的に全国平均を大きく下回る結果が見られた。
・中２男子を見ると、上体起こし、長座体前屈で、全国平均を上回る結果が見られた。また５０m走では全国平均に近い結果が見られ、スピード、柔軟性は全国平均と比べ、長けていることが分かった。
・握力、反復横跳び、立ち幅跳び、２０mシャトルラン、ハンドボール投げでは全国平均を下回る結果が見られた。敏捷性、筋力、瞬発力、などが課題である。特にハンドボール投げ、２０mシャトルランが大きく下回り、巧緻性、瞬発力、全身持久力などの課題が見えた。

・中２女子を見ると、上体起こしが全国平均を上回る結果が見られた。また、長座体前屈、反復横跳びでは全国平均に近い結果が見られた。
・２０mシャトルラン、５０m 走、立幅飛び、ハンドボール投げ、握力では全国平均を下回る結果が見られた。特にハンドボール投げ、２０mシャトルランが大きく下回る結果で、巧緻性・瞬発力、全身持久力などの課題が見えた。

取組み

体力向上・体づくりには、「楽しく」「やる気」を持ってトレーニングすることが必要となってくる。そのために、体育の授業で授業の初めに体操やトレーニングによる、補強運動や筋力トレーニングを行うことで、より効果的な基礎体力の向上につなげるよう、取組みを進める。

また、気軽に体を動かすことのできる雰囲気づくりにつながるよう、昼休みに運動場でボール遊びをはじめとして、外に出て活動することを奨励する。

体を動かすことでの体力向上と並行して、何事に対しても最後まで粘り強くやりきる力の育成や、家庭・地域と連携し、バランスの良い食生活を送ることができるよう食育にも取り組み、健康な体づくりができるようにする。